

科に紹介された。入院後の CT では病巣を確認できなかったが、摘出術にて海綿状血管腫と診断した。症例 2, 49歳女性, 頭痛にて某医を受診した際, MRI にて右側頭葉皮質下に約 2 cm の腫瘤を発見され当科に紹介された。入院後の CT では病巣は僅かに高吸収値を示し, 若干の増強効果が認められた。摘出術にて海綿状血管腫と診断した。2例とも, 単純 CT のみでは診断困難であり, MRI によるスクリーニングが有用であった。今後 MRI によって発見される海綿状血管腫の症例が増加してくると思われる。

### C-10-3) 脳内海綿状血管腫 5 例の治療経験

市川 昭道・大塚 顕  
小田 温・西野 和彦 (長野赤十字病院)  
酒井 圭一 (脳神経外科)

脳内海綿状血管腫は, 近年 CT, MRI の普及により incidental に発見される場合も多く, cerebral vascular disease の中では頻度の高い疾患として位置づけられている。当科では, 最近 5 例の海綿状血管腫に対し外科的治療を行う機会を得た。症例は 18 歳から 49 歳 (平均 28.2 歳) の若年・女性で, 発症様式および臨床経過はかなりの variety があり, 他の頭蓋内占拠性病変との鑑別が術前には困難であった症例も存在した。MRI を中心とする種々のレントゲン学的検査も有用であるが, 大きな血腫を形成する場合には術前診断が難しく, 治療上注意を要する。また, 出血で発症した場合は, 短期間に出血を繰り返す危険性があり, 早期に摘出すべきと考えられた。今回報告する 5 例は, 再手術を行った 1 例を含め全例とも術後経過は良好であり, 併せて本疾患に対する外科的治療の有用性を強調したい。

### C-10-4) 小脳出血にて発症した海綿状血管腫と静脈血管腫の合併例

平山 章彦・後藤 博美 (平鹿総合病院)  
塩屋 斉 (脳神経外科)

【症例】13歳, 男子, 中学生。

主訴: めまい, 嘔吐。現病歴: 突然のめまいと頻回の嘔吐にて発症し, 7 日目の CT で小脳出血を指摘され脳神経外科入院。CT 所見: 小脳虫部に限局した HDA とこれと連続して線状一部放射状の血管成分が強く増強された。脳血管写所見: VAG 動脈相に early venous filling なし。静脈相で左小脳半球に caput-Medusae like appearance を認める。MRI 所見: 小脳虫部に high

及び low SI の混在する中心部とその周辺の smooth な low SI が指摘され, 海綿状血管腫が疑われた。手術: 小脳虫部の海綿状血管腫のみを全摘出し, 隣接する静脈血管腫は温存した。組織所見: 血管腔を形成する壁に弾性線維を欠き, 血管組織間に脳実の介在もなく, 海綿状血管腫と診断された。考案: 静脈血管腫の出血例は MRI が必須であり, 海綿状血管腫との合併例では, 後者のみを摘出すべきである。

### C-11-1) 頭蓋骨形成による術後神経症状の改善 — Dynamic CT による検討 —

鈴木 直也・鈴木 重晴 (弘前大学脳神経)  
岩淵 隆 (外科)

減圧開頭術を施行した症例の慢性期に頭蓋形成術を行った際, いったんは固定したかのように思われた神経症状が改善されることはしばしば経験される場所である。今回我々は減圧開頭術を行った 6 症例に対して, 慢性期に自家骨による頭蓋形成術を行い, その術前後に左右の前頭葉・基底核部・側頭葉・後頭葉に関心領域を設けた Dynamic CT と神経症状の推移を観察し検討を行った。6 例中 5 例は術後何らかの神経症状の回復を認め, 悪化を示した症例はなかった。術後増加傾向を示した脳循環は個々の領域では有意差には至らなかったが, 脳全体と比較すると改善 ( $p < 0.05$ ) が生じていた。

以上より, 減圧開頭術を施された症例に対する頭蓋形成術が脳循環の改善によって神経機能の回復をもたらす可能性が示された。

### C-11-2) 酒石酸エルゴタミンにて片麻痺が増悪したと考えられた孔脳症の 1 例

高萩 周作・西坂 利行 (星総合病院)  
脳神経外科

酒石酸エルゴタミン投与で片麻痺の増悪を認めた孔脳症の 1 例を経験したので報告する。症例は 21 歳の男性, 正常満期産で乳児期より左不全片麻痺を認めていたが, 発育は正常であり, 麻痺も日常生活において支障はない程度であった。頭痛を主訴に近医受診し, 酒石酸エルゴタミンの投与を受けた。服用後, 徐々に左不全片麻痺が増悪し歩行困難となり, 精査目的にて来院した。入院時左片麻痺 4/5, 左知覚低下を認めた。CT 上, 右中心溝を中心に water density の低吸収域を認め, MRI ではくも膜下腔及び側脳室後角部と交通していた。脳血管